

第4回「原子力フォーラム茨城」に参加して（感想文）

第4回「原子力フォーラム茨城」へ参加された高校生から寄せられた感想文を紹介します。

これからの道

茨城県立大洗高等学校三年 富田 綾乃

私にとって「戦争」とは、歴史上のことであり、過去のことでした。だから、自分が生きているこの時代に、「戦争」が起こるとは思ってもいませんでした。しかし、北京オリンピックが終わった直後の2022年2月24日、ロシアがウクライナを攻撃しました。テレビやSNSから流れてくる映像が本当の映像とは感じられず、まるで映画のように感じていました。

私は将来、食に関する仕事に就きたいとっていて、食べ物には非常に興味があります。ウクライナやロシアは小麦の産地であり、戦争のため小麦の輸入が滞り始めました。その結果、私たちの身近な食べ物の値段が上がり始めました。こうして、私はやっと「今、戦争が本当に起きているんだ」と思えるようになりました。しかし、テレビやSNSはいつも同じ情報ばかりを伝えていて、この戦争をもっと知りたいと思い、大洗町で開催された「原子力フォーラム」に参加させていただきました。

衆議院議員の石川さんは「エネルギー」という観点から、この戦争の日本への影響を話していただきました。ロシアに対する経済制裁が、実は日本を苦しめているという事実を知りました。

元外交官の宮家さんの話は「戦争とはなにか」という根本的な内容が多かったと思います。遠くで行われている戦争のせいで、私たちの食生活に影響があること。戦争をしている国同士の意見がまったくかみ合わず、何が正しくて何が間違いなのかが分からなくなったことなど、私にとっては衝撃的な内容がたくさんありました。

そして科学そのものに興味を持った私は、原子力国民会議茨城支部の方をお願いして、大洗わくわく科学館の見学をさせてもらえることになりました。そこで原子力が私たちの生活のいろいろな場面で役に立っていると知りました。日本原子力研究開発機構では、これまでもいろいろと開発したのに、今でも進化をしようと努力を続けていること。命の危険がすぐそこにあるのに、人類のために頑張っていることなどを感じました。その中でも特に印象に残っているのが「ポテトチップスが1年中食べられるのは原子力のおかげ」という話です。原子力でじゃがいもの発芽時期を調整することができるそうです。私たちが普通に食べている物に、原子力が関わっていることは、食に関する仕事がしたいとと思っている私には、新しい発見でした。

世界情勢、エネルギー問題、原子力と食物の関係。ここ数ヶ月で新しく知ったことがたくさんあります。きっとこれからももっともっと新しいことを知ることになると思います。ニュースが全てではなく、自分で何が正しくて、何が正しくないかをきちんと調べ、これからもどんどん新しいことを吸収していきたいと思います。

自分にできること

茨城県立大洗高等学校三年 佐藤 謙介

僕は将来、理学療法士になりたいと思っています。スポーツが大好きで、小学校ではサッカー、中学校、高校ではバレーボールをやっています。自分の進路について考えたとき、一生スポーツに関わっていきたいと思うようになりました。あるときニュースで、部活動が学校から離れ、地域に住む一般の人々が指導するようになるという話を聞きました。もし、自分にも話があれば、子どもたちを指導してみたいと思っています。そのためにも、仕事としてスポーツに関わりたいと思い、怪我をしたスポーツ選手のサポートができる理学療法士になりたいと思うようになりました。

医療に興味を持つようになってから、原子力が医療にも役立つと聞きました。僕の通う高校がある大洗町には原子力関係のすごい施設があり、一度は話を聞いてみたいと思っていたので、今回「原子力フォーラム」に参加してみようと思いました。

フォーラムの内容は新しい発見がたくさんありました。広島ガスを始めとする多くの企業が、サハリンの天然ガスを利用しており、日本はロシアのエネルギーに頼らなければならないこと。地政学という学問分野があり、それによって歴史上の戦争が説明できること。中国の国防相が台湾について「もし分断しようとする者がいれば、中国はいかなる犠牲を払っても必ず最後まで戦う」と言ったことなど、これまでまったく聞いたことのないことがたくさんありました。

マスコミの情報だけでは、ロシアがウクライナを攻撃する意味が分かりませんでした。しかし今回のフォーラムを聞くと、ロシアは北側を除く三方をいろいろな国と接しており、いつも外国からの侵略に怯えていなくてはならない。その恐怖から逃れるためには、海を抑えたい。ウクライナには申し訳ないと思いつつも、海を制したいという思いからウクライナに「特別攻撃」を加えざるをえなかった。これは海に囲まれた日本人には分かりづらいことのようにです。

地政学という分野はまだまだ分からないことばかりですが、この分野を勉強してみたいと思っています。マスコミから流れてくる情報をそのまま信じるのではなく、自分なりに考えることができるくらい勉強して、少しでも自分の将来と人の役に立てるようになりたいと思いました。

原子力の在り方をデザイン

茨城県立大洗高等学校二年 米川 美麗

大洗は観光地として有名で、ここ数年は「アニメとのコラボが成功した町」として注目されています。しかし、日本原子力研究開発機構の研究所がある「原子力の町」という一面も持っています。私の地元はここ大洗で、小さい頃から研究所の見学に行ったり、講話を聞いたり、原子力を身近なものとして育ちました。

東日本大震災のときの福島第一原発の事故の影響で、原子力にはとても悪いイメージが

ついたと思います。原子力は、原爆に象徴されるように、私たちの想像をはるかに超えたものすごいエネルギーがあると思います。それを制御するのはたいへんだと思いますが、そのエネルギーが安全かつ平和に使われるのであれば、それはたいへんに素晴らしいものであり、私たちの生活には欠くことのできないものになると思います。

しかし、今回のフォーラムに参加させていただいて、原子力はロシアにとって武器であり、戦争の道具になっていると感じました。そればかりかロシアで得られる自然エネルギーまでも、ロシアは外交の道具にしようとしていると知りました。他国と協力してロシアに経済制裁を科している日本に、ロシアは天然ガスの輸出差し止めなどで圧力を掛けてきています。

そこでこれからの日本はどうすべきか、私なりに考えてみました。もし日本で使用されるエネルギーの全てをクリーンエネルギーに置き換えることができるのであれば良いですが、今のクリーンエネルギーは安定性に欠けており、現実はまだ厳しいと思います。

私は将来デザインの仕事に就きたいと思っています。私の考えるデザインとは、生活デザインであり、地域デザインです。この大洗町を私がデザインするならば、原子力を利用すべきだと考えています。原子力を活用するにあたっては、この地域の知的好奇心を喚起し、人々の理解が必須だと思います。

私はこれからも国挙げての課題の一つである原子力に関心を持ち続け、この町の将来をデザインしていきたいと思っています。

以上